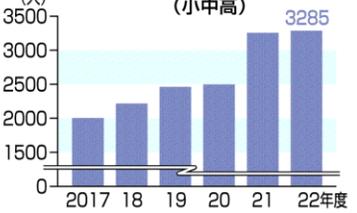




大分合同新聞
ワークシート

〔問①〕 県教育委員会が、2022年度の不登校だった児童・生徒は、記録が残る1999年度以降で最多と発表しました。原因は何だと考えていますか。

大分県内の不登校児童・生徒数 (小中高)



いじめの認知件数と解消率 (%)



※いじめは特別支援含む(文部科学省調べ)

県内22年度

大分県教委は6日、2022年度に県内で不登校だった児童・生徒が3285人だったと発表した。記録が残る1999年度以降で最多。いじめの認知件数は9361件で、児童・生徒千人当たりの数は全国5番目に多かった。県教委は「長引く新型コロナウイルス禍による生活環境の変化が登校意欲を低下させた。いじめは積極的に見つけるよう取り組んだ結果」と説明している。(21面に関連記事)

不登校最多3285人 いじめ9361件に減

文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校調査」の一環で、県教委が県内の国公私立448校を調べた。不登校は年間30日以上欠席者で、21年度から31人増えた。中学生が1887人(21年度比181人増)で全体の6割近くを占めた。小学生は816人(110人増)、高校生は582人(260人減)だった。いじめは千人当たり79.6件で、全国平均の53.3件を大きく上回った。

総数は21年度から1115件減った。内訳は▽小学校7848件(8444件減)▽中学校1357件(2588件減)▽高校111件(23人増えた。2021年度から23人増えた。「学校生活や授業に適應できない」といった理由が約4割の150人。児童・生徒に与る暴力は418件(58件減)で、7割超の317件は子どもたち同士で起きた。教員への暴力は35件だった。

〔問②〕 いじめは千人あたり79.6件で、全国平均の53.3件を大きく上回りました。県教育委員会は理由をどのように考えていますか。

〔問③〕 グラフ「いじめの認知件数と解消率」によると、2017年以降、解消率が減少傾向であることが読み取れます。解消率を高めるためには、どうすればいいと考えますか。自分の意見を書いてみましょう。

〔問④〕 高校の中退者数は341人で、2021年度より23人増えています。誰もが学校生活や授業に適應するため、クラスの仲間にながらできるのか考えてみましょう。